

コード	304011901
記入日	H23.6.6

課コード	112
課名	こども課
課長名	荒木 宣貴
担当者	佐々木 直子

# 事務事業途中評価表

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	児童館運営事業
----------	---------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 ー 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	3	政策名称	誰もが安心できる保健・医療・福祉の充実	款コード	3
施策コード	304	施策名称	ふれあい、支えあい、助けあい、みんなで育てよう未来の宝	項コード	2
基本事業コード	30401	基本事業名称	地域における子育ての支援	目コード	5
事務事業コード	3040119	事務事業名称	児童館管理費	細目コード	279・280
関連計画	次世代育成支援地域行動計画		法令・条例規則等	新上五島町児童館条例	

## 計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象：誰、何を対象しているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 年間利用者数		(対象指標1)	8,662人			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	・ 児童館開館日数：244日 ・ 児童館年間利用者数：8,662人	① 開館日数	244日	100%	開館日数244日+開館すべき日数244日	***** 平成22年度
		(達成率分析)	計画どおり開館し、児童館事業を実施した。			
		②				
		(達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		① 利用者数	8,662人	113%	利用者数8,662人+前年度実績数7,652人	***** 平成22年度
	・ 子育てサークル・母親クラブ・子ども会の地域活動及び児童の放課後の遊び場としての活動を行っている。	(達成率分析)	乳幼児の利用は減っているが、小学生の利用が昨年より増加している。			
		②				
		(達成率分析)				

## 実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 日	1,663	1,663	1,419	244	244					
	②										
成果指標	① 人	46,934	46,934	38,272	8,662	8,662					
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	43,285	43,285	34,330	8,955	8,955					
直接事業費 A	千円	36,285	36,285	28,730	7,555	7,555					
人件費 B	千円	7,000	7,000	5,600	1,400	1,400					
内訳	従事職員数	人	1.0	1.0	0.8	0.2	0.2				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円	200	196		200	196				
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	43,085	43,089	34,330	8,755	8,759					

**評価**

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	児童に健全な遊びの場と健康増進の場を与えるために必要である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	少子化の時代に子どもが孤立しないよう遊びの場・交流の場として必要な施設である。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	児童に健全な遊びの場を与え、その健康を増進し情操を豊かにすることを目的としており、適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	条例の趣旨のとおり、児童の放課後の居場所として必要な活動が行われている。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	幼児期から高齢者まで、活動・交流の場としての利用方法を検討する。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	地域に子育て支援(児童の居場所づくり)の場がなくなることにより、福祉機能が低下する。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	現在のところ、地域において同様の事業を行っていない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	運営上、これ以上の削減はできない。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	最小の人員で実施している為、削減できない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	場を提供するもので、利用料は無料である。

**改善**

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ見直しの必要性はない。
		有効性	乳幼児から高齢者まで、活動・交流の場として利用方法を検討する。
		効率性	現制度における実施方法で良いと思うが、地域のボランティアサポーター等の育成が必要である。
		課題に向けた改善策	特になし。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	引き続き児童館利用の利便性を高めるとともに、維持・管理に努めること。
		効率性	経費の執行については適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続
		●		事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。